

「I C Tを活用した学校教育」
に関する政策提言書

令和4年2月

奥州市議会 教育厚生常任委員会

< 目 次 >

第1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2	背景、現状及び課題等・・・・・・・・	2
第3	教育厚生常任委員会の取組み・・・・・・・・	7
第4	政策提言・・・・・・・・・・・・・・・・	11
第5	終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・	16

[巻末]

資料 学習用ノート型PCを活用した学習に関する調査

第1 はじめに

日本におけるICT教育は、イギリス・アメリカなどの欧米に比べると遅れ気味であり、OECD諸国の中でも後塵を拝していると言われている。

2009年に文部科学省は「スクール・ニューディール構想」に基づき、全国の小中学校の耐震化やICT機器を一斉に整備することとしたが、耐震化が優先され、教室にはデジタルテレビや電子黒板などの大型提示装置の設置だけにとどまった状況にある。

文部科学省は、子どもたちへ1人1台の端末整備と、高速で大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、特別な支援を必要とする子どもを含め、多彩な子どもたちの資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するための「GIGAスクール構想」を2023年度までの予定で進めてきた。昨今の新型コロナウイルスの感染拡大等の影響もあり、思わぬ形で計画は前倒しとなり、2020年度中に約98%の公立小中学校でICT環境が整備されるという、当初より短い期間で「GIGAスクール構想」が進められてきている。

奥州市では「GIGAスクール構想」推進計画を策定し、情報教育推進室を設置するとともに、GIGAスクールサポーターや利活用に関するワーキンググループを配置し取り組んでいる。また、ICTを活用した学習推進に係るグランドデザインを作成し、2021年度以降を第1期から第3期に分け、小学校低学年・中学年・高学年と発達段階に応じて児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を整理し、具体的項目で示している。

機器の整備では、2017年度に学校無線LANの整備、2020年度に電子黒板の整備を行ってきており、今回の「GIGAスクール構想」前倒しにより、市内の児童・生徒と授業に携わる教職員に1人1台のノート型PCを整備し、各教室には充電保管庫を配備している。

このように本市でも、小中学校での教育ICT環境の整備が進む中、指導者の育成、ICTの有効的な利活用方法の模索などの取組みの必要性も明らかになっている。ICT環境の整備は目的ではなく、あくまでも手段であり、児童・生徒がのちの社会生活において活用できる生きた知識・経験を、ICT学習を通して獲得できるようにするためにも、本常任委員会として政策提言を行うものである。

第2 背景、現状及び課題等

1 国内におけるICT教育の現状

平成13年1月、高度情報通信ネットワーク社会形成基本法（IT基本法）が施行され、平成18年1月には、世界のIT革命を先導するフロンランナーとして国際貢献できる国家を目指し、「IT新改革戦略」が策定されている。IT新改革戦略では、学校教育の情報化が施策の一つとして位置づけられており、学校のICT環境の整備、教職員のICT指導力の向上、ICT教育の充実、校務のICT化の推進、情報モラル教育等の推進の重要性が規定されている。

ICT技術の社会への浸透に伴い、教育現場でも先端技術の効果的な活用が求められる時代になっている。国は、すべての子ども達の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、児童生徒の「1人1台端末」等のICT環境を整備する「GIGAスクール構想」を打ち出し、その実現に力を入れている。

令和の時代を迎え、新型コロナウイルスの世界的な大流行を受け、GIGAスクール構想の必要性が急速に高まり、2023年度までとしていた当初目標も2020年度内に前倒しされ、端末等の整備が加速している。

2 奥州市におけるICT教育の現状と課題

(1) 教育環境と労働環境の整備

本市では、国のGIGAスクール構想に基づき、令和3年8月末に1人1台ノート型PC機器の配置を実現。令和4年度までを、ICTを活用した学習の推進の第1期と位置づけ、教職員への研修実施と並行しながら、授業での活用を進めている。現在は、実際に触れてみる、操作方法を覚えるなどの初期操作に留まる学級がある一方で、積極的に授業で活用している学級、あるいは科目があるなど、その活用方法や頻度及び内容は、各教職員に委ねられているのが実情である。

当委員会が実施した、学習用ノート型PCを活用した学習に関する調査では、教職員に対して「ノート型PCを使った授業に向けて今必要と感ずること」について質問をおこなった。回答は選択式とし、項目は次の6つとした。

【質問】ノート型PCを使った授業に向けて今必要と感ずることを教えてください。
(複数選択可)

【回答】

①操作研修会

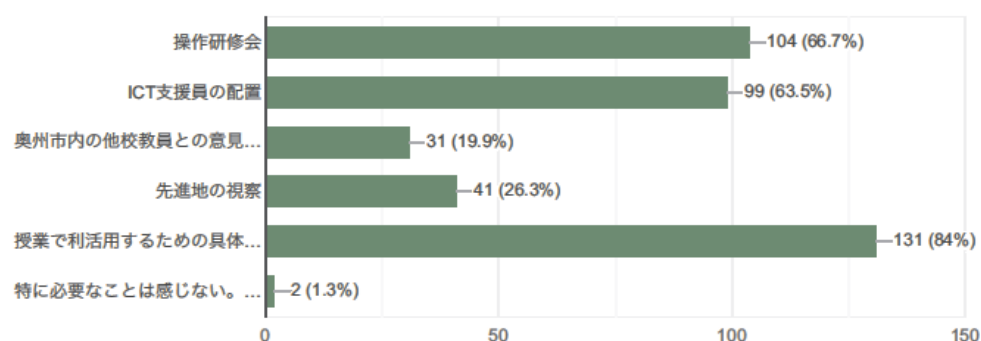
②ICT支援員の配置

- ③奥州市内の他校教員との意見交換会、学習会
- ④先進地の視察
- ⑤授業で利活用するための具体的な事例（授業内容等）
- ⑥特に必要なことは感じない。（充分対応できている）

[集計図1]

ノート型PCを使った授業に向けて今必要と感ずることを教えてください。（複数選択可）

156 件の回答



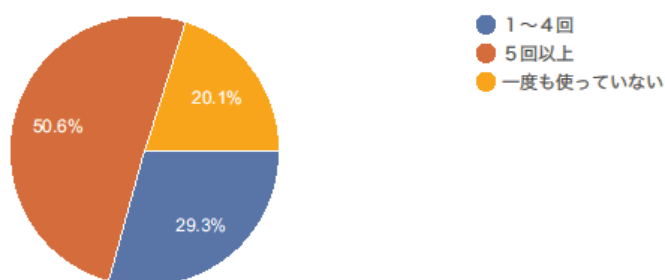
上の集計図1が示すように、操作研修会、ICT支援員の配置、授業で利活用するための具体的な事例を求める声が多く挙げられた。

また、児童・生徒及び保護者に対して、授業でのノート型PCの活用状況を質問したところ、下の集計図2が示すように、全体の8割が1回以上使っていると回答しているのに対し、2割が一度も使っていないという回答であった。

[集計図2]

これまで授業で何回くらいノート型PCを使いましたか？

786 件の回答



3学期以降に使用することも想定されるが、現状のままでは学級や科目によって使用状況の差が拡大し、結果として、クラス替え等により、習熟度が異なる生徒が混在することが懸念され、今後の運用に向けて不安を残す形となっている。

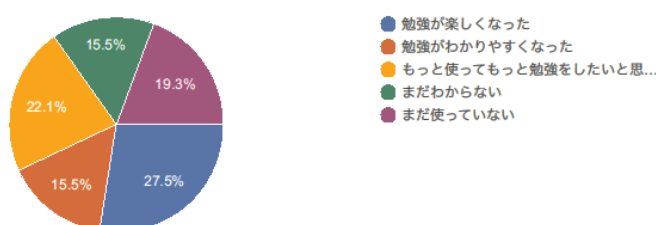
これは、教職員自身がノート型PCの操作がまだ分からないこと、授業での活用方法が分からないことが、使用頻度の差が生じる主な原因であると推測される。このことから、教職員に対する操作研修の充実は重要な項目であるが、多忙を極める教育現場では、研修を受ける時間を今以上に確保することは非常に困難であり、ICT教育を推進する上での大きな課題となっていることが浮き彫りとなった。

(2) 情報リテラシー、情報モラル教育

ノート型PCを使った学習については、児童・生徒からは好意的な意見が大半を占めており、保護者からも積極的な活用を求める声が多かった一方で、インターネットトラブルが心配や心身面への影響、機器破損時の対応など、不安の声も数多く寄せられた。

[集計図3]

使ってみて良かった点を教えてください
786 件の回答



[集計図4]

改善してほしい点を教えてください
786 件の回答



質問 保護者にお聞きします。ノート型PCを使った学習についてご意見、ご要望を教えてください

主な回答

- ・ ネットトラブルが不安
- ・ ノート型 P C の利用は賛成だが、鉛筆やノートなどの利用も併用してほしい
- ・ もっと授業で活用してほしい
- ・ オンライン授業、リモート授業を実施してほしい
- ・ 破損が心配。家庭への持ち帰りはしないでほしい など

市教育委員会の説明によれば、ノート型 P C 機器の選定はさまざまな視点から行われ、その中では、セキュリティ面での安全性や機器の頑丈性などが考慮されていること、管理面では、アプリケーションソフトの導入制限や、インターネットアクセスの制限なども設定できるようになっているとのことであり、これらの点がまだ保護者へ浸透し切れていないことが不安を抱く要因となっていると考えられる。

安全性や頑丈性を備えた機器を導入しているとはいえ、実際に使用する児童・生徒への指導及び教育を欠かすことはできない。情報を十分に使いこなせる能力、いわゆる情報リテラシーを育むために、情報モラル教育の継続的な実施は必要なことである。

(3) 新型コロナウイルス禍における学校教育

新型コロナウイルス感染症の拡大によって全国で学校が一斉休業となった際、その間の学びをいかにして保障するかが大きな課題となった。全国の事例を見ると、熊本県球磨郡山江村のように、先進的に学校教育に I C T 機器を導入している自治体では、リモート授業、オンライン学習への切り替えによって大きな混乱を招くことなく授業を継続することができている。当市においても先進事例を学びながら、不測の事態に備えることが重要である。

(4) 不登校児童・生徒への対応

リモート授業は、不登校児童・生徒と学校をつなぐ手段としても有効性が大きく期待できる。当市における不登校児童・生徒数は約100名。原因はさまざまであり、その解決は容易ではない。それと同時に、学業の遅れは進路選択上の不利益につながる事が想定され、進路選択上の不利益は社会的自立への妨げにつながるおそれがある。リモート授業をはじめとした、I C T を活用した学習支援は学びの機会を確保することが可能となることから、当市では、いかにして運用までこぎつけるかが目下のところの課題と言えよう。

(5) 特別な支援を要する子どもたちへの対応

特別な支援を要する児童・生徒に対する学習支援という観点においても、ICTの有効性は国も認めている。障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに合わせた適切な教材等を活用することで、さまざまな困難を取り除いたり、減らしたりすることができる。ICTの活用は、そうした子どもたちの可能性を広げる機器として大きな役割を果たすことができる。

このように、誰一人として取り残さない、持続可能な学習体制の構築が奥州市の学校教育の飛躍的な向上に結び付くことが大きく期待できることから、躊躇することなく取組みを推進することが求められる。

第3 教育厚生常任委員会の取組み

1 教育厚生常任委員会での調査経過

令和2年

- 4月21日 政策提言のテーマを「少子化における学校教育の在り方」に決定
- 8月28日 市民と議員の懇談会のテーマと課題を検討
- 9月23日 所管事務調査 奥州市における小規模・複式教育の現状と課題
- 10月2日 行政視察テーマの決定、視察先の検討
- 10月19日 市民と議員の懇談会のテーマと課題を決定
- 11月5日 行政視察 項目 小規模特認校制度について
視察先 山形県東根市高崎小学校
- 11月27日 市民と議員の懇談会の開催準備

令和3年

- 2月1日 市民と議員の懇談会の開催準備
- 2月16日 市民と議員の懇談会の開催準備
- 2月22日 所管事務調査の検討
- 3月10日 所管事務調査 外国語教育の現状と課題
- 3月25日 市民と議員の懇談会の開催準備
- 3月27日 市民と議員の懇談会 「少子化における学校教育の在り方～小中学校再編計画を考える～」
- 4月13日 政策提言に向けた年間計画の決定



小規模特認校の実態を視察
(山形県東根市高崎小学校)



P T A役員と学校教育の在り方を話し合った
(市民と議員の懇談会)

5月27日 所管事務調査 ① I C Tを活用した外国語教育の現状と課題

②県内外における I C T教育全般の現状

6月4日 政策提言項目の方針について協議

6月16日 政策提言項目の検討

6月22日 政策提言項目の検討

7月1日 政策提言項目の決定 「I C Tを活用した教育に関する政策提言」
市民と議員の懇談会の実施決定

7月16日 行政視察の実施決定

7月30日 行政視察 項 目 I C Tを活用した学校教育について
視察先 熊本県球磨郡山江村（オンライン形式）

山江村では、全国に先駆けて平成23年から学校教育の I C T化の取組みが進められており、平成28年には日本教育工学協会から「学校情報化先進地域」の認定を受けている。生徒1人に1台のタブレットを整備し、例えば理科の授業では、タブレットを用いて植物の観察記録を作成し、考察やまとめを行ったり、社会科の授業では、自作のプレゼン資料を用いてお互いが感想を述べ合ったりと、主体的、対話的な学びを行っているとのことであった。また、家庭ではデジタルドリルを用いて学習しているとのことで、これら I C T教育の取組み開始以降、子ども達の学習意欲が飛躍的に向上し、開始から3年で学力は全国トップレベルまで伸びている。

I C T教育は学力の向上だけでなく、教職員の働き方改革にもつながっており、超過勤務時間の大幅な減少の実現にも成功している。また、コロナ禍における一斉休業の際も、すぐにオンライン授業に切り替えることができ、子どもの学びを止めることがなかったとのことで、I C Tを活用した学校教育のメリットを学ぶ非常に良い機会となった。



県内の I C T教育の現状について学んだ
(所管事務調査)



最先端の I C T教育の取組みに感嘆の声が漏れる
(熊本県球磨郡山江村)

- 8月16日 岩手緊急事態宣言発出に伴い、市民と議員の懇談会の中止を決定
- 8月30日 学校教育におけるICTの活用に関するアンケートの実施を決定
- 9月22日 政策提言項目の検討
- 11月4日 政策提言項目の検討
- 11月15日 所管事務調査 ICTを活用した学校教育の現状
- 11月17日 学校教育におけるICTの活用に関するアンケート調査を開始

開催中止となった市民と議員の懇談会に代わる手段として、市内小中学校の全ての児童・生徒及び保護者並びに教職員を対象としたアンケート調査をオンライン形式で実施。このアンケートでは、Googleフォームを活用し、回答のしやすさ、コストの削減、集計の迅速性等を追求。当市におけるアンケート調査の手法として非常に先駆的な取組みとなっている。

結果として多くの声、意見を集めることに成功し、政策提言項目を設定する根拠として説得力を持たせることとなった。なお、アンケートの詳細は巻末の資料編を参照されたい。

学習用ノート型PCを活用した学習に関する調査 (主体：奥州市議会 教育厚生常任委員会) 2学期からノート型PCが生徒1人に1台導入されました。奥州市議会では、ノート型PCを活用した学校教育をより良いものとするために、政策提言の準備を進めています。皆さんからの声が何よりも重要です。ぜひ親子で話し合いながら、アンケートへの回答をお願いします。 ※本アンケートは任意です。調査結果は目的以外には使用しません。また、個人の特定につながる質問項目は含まれておりません。 学校の区分を教えてください * - 小学校 - 中学校 これまで授業で何回くらいノート型PCを使いましたか？ * 1～4回 5回以上 - 一度も使っていない ノート型PCを使った教科を教えてください（当てはまるものを全て選択） * ☐ 国語 ☐ 算数・数学 ☐ 理科 ☐ 社会 ☐ 英語	【教員対象】学習用ノート型PCを活用した学習に関する調査 (主体：奥州市議会 教育厚生常任委員会) 2学期からノート型PCが生徒1人に1台導入されました。奥州市議会では、ノート型PCを活用した学校教育をさらに良いものとするために、政策提言の準備を進めています。アンケートへご協力をお願いいたします。 ※本アンケートの回答は任意です。調査結果は目的以外には使用しません。また、個人の特定につながる質問項目は含まれておりません。 現在勤務する学校の校種を教えてください * - 小学校 - 中学校 ノート型PCを使った授業に向けて今必要と感じることを教えてください。（複数選択可） * ☐ 操作研修会 ☐ ICT支援員の配置 ☐ 奥州市内の他校教員との意見交換会、学習会 ☐ 先進地の視察 ☐ 授業で活用するための具体的な事例（授業内容等） ☐ 特に必要なのは感じない。（充分対応できている）
--	---

児童生徒及び保護者向けアンケート

児童生徒及び保護者向けアンケート

アンケートフォームのURLは、各学校のマチコミを活用し、保護者へ通知する手法を採用。これにより、従来のアンケート用紙の配布、回収、集計を最大限まで簡略化することが可能となった。質問項目は選択方式を中心とし、質問数も必要最小限に絞ることで、回答者の負担軽減に努めた。

11月30日 政策提言項目の検討

12月17日 政策提言書案の検討

令和4年

1月7日 政策提言書案の検討

1月17日 全員協議会で、政策提言書案の議員説明と会派意見依頼

2月2日 政策提言案会派意見の検討、政策提言書最終案・発議案の検討

2月4日 全員協議会で、政策提言書最終案・発議案の説明

2月10日 発議案「ICTを活用した学校教育に関する政策提言書」提出に関する決議の議長提出

第4 政策提言

〔政策提言で目指すSDGs〕

※奥州市版SDGs



【提言1】

ICT機器の特性を生かした教育環境及び労働環境を形成すること

1 提言の背景

ICT機器を活用した学校教育はまだ始まったばかりであり、令和3年度は助走期間とも言えるだろう。校舎内のWi-Fi環境や教室へのデジタル黒板の設置、児童・生徒へのノート型PCの導入等、ハード面での環境はひととおり整っているものの、授業での活用方法やノート型PCの家庭への持ち帰り利活用方針など、学校側、児童・生徒側双方において運用面における課題が数多くある。

ICTを活用した新たな授業方法を確立するためには、教職員の研修及び研究機会の確保が必要である。先に行った教職員向けのアンケート調査では、「どのように授業で活用したら良いのか手探り状態」、「活用方法についてじっくりと研究したいが時間も余裕もない」などの声が複数挙げられている。

業務の電子化やICTを活用した教材の共有化など、働き方改革をさらに推し進めることによって、結果として質の高い教育環境の形成につながると考えられる。機器の操作から、教材開発などをサポートするICT支援員の拡充も含め、教職員の労働環境を整えることは必要である。

2 具体的施策

(1) 学級通信や配布物等のデータ配信の実施

ノート型PCの自宅持ち帰り学習の早期実施に向け、初期段階として、学級通信や配布物等をペーパーレスに切り替えること。次段階は、家庭学習プリントの配布や、保護者との連絡などの活用へとつなげていくこと。

(2) デマンド型操作研修の実施

ICT機器の操作研修については従来型の研修方法に加えて、時間と場所の制約を受けることのない、デマンド型での研修を実施できるようにすること。

(3) チャット機能を活用した情報の共有

Googleチャットを例とするグループチャットの機能を活用し、教職員全体・学年・事務分掌ごとに情報共有するだけでなく、市内全ての小中学校との連携を図り、情報共有を行えるようにすること。

(4) 授業での具体的な活用方法や、先進地の事例の提示

教科や学年ごとに授業での具体的な活用方法を作成し教職員全体で共有することに加え、先進地の実施事例や授業風景動画などを整備し、具体的な指導方法を学べる環境を整えること。

(5) 財源確保の長期的計画

ハード面の整備が完了したが、これらの機器は5年後、10年後には更新の時期が必ず訪れる。また、教育現場より、さらなるICT支援員の拡充やデジタル教材の充実が求められることも想定されるため、長期的且つ安定的な財源確保策を講じること。

【提言 2】

健やかな心身を育む I C T 教育を推進すること

1 提言の背景

当常任委員会が実施したアンケート調査によれば、I C T 機器を活用した学習について、保護者及び教職員の大多数から肯定的な意見が寄せられており、この活用へ大きな期待を窺い知ることができた。一方で、ネットトラブルや視力の低下など、心身へ与えるマイナスの影響を懸念する意見も散見された。そのマイナスの影響を回避するために、使用に制限をかけたり、使用そのものを取り止めてしまったりすることは避けなければならない。

全国的に、コミュニケーショントラブル、長時間利用による健康上の問題、不適切サイト（有害情報）の閲覧の3点が課題として挙げられる。これらを防ぐためには、情報モラル教育の実施が有効とされており、当市においても積極的に実施していくことが必要である。

2 具体的施策

(1) 情報モラル教育の実施

情報モラル教育は、日常モラルを育てながら、インターネットの仕組みを理解させ、それらを組み合わせて主体的に考えさせることが重要であると言われている。情報機器を使い始めた直後の指導が非常に重要であり、当市においてはまさに今がその時期である。下記の点を中心に、児童生徒の状況に即した情報モラル教育を家庭と連携しながら繰り返し取り組むこと。

- ① インターネットには、「公開性」「記録性」「信ぴょう性」「公共性」「流出性」などの特性があり、これらを児童・生徒の発達段階に応じて理解を深めさせ、これまでに発生している多様な事件やトラブルの本質を捉えさせること。
- ② インターネット上では、直接顔を合わせていないので、対面では言えないようなことが言える。しかし、文字でのやり取りが中心になるために真意が伝わりにくく、誤解が生じ、感情的になりやすいという特性がある。相手を思いやる気持ちを保つことが必要なことは当然であるが、「どんなに気をつかっても誤解やトラブルが生じる可能性がある。」ことを教えること。
- ③ 情報機器やサービスは日々進化しており、魅力的な物や情報が溢れているため、夢中になりやすい。使い始めるとなかなかやめられなくなり、依存になる可能性があることを理解させること。

【提言 3】

学びを止めない、持続可能な学習体制を構築すること

1 提言の背景

文部科学省の発表によれば、令和2年度における全国の小中学生の不登校者数は約20万人となっており、当市においても課題として捉えられている。その原因は、複雑かつ多様であるために一概には言えないものの、「無気力・不安」「発達障がい（疑い）や体調不良が関係していると思われるもの」などが要因として挙げられている。不登校の解消を目指すのはもちろんのことであるが、その間の学びを止めない仕組みづくりを構築することも重要である。

近年は新型コロナウイルスの影響によって一斉臨時休校となり、その対応に苦慮したことは記憶に新しい。今後も同様の事態が生じる可能性が否定できないことから、オンライン授業や在宅学習の体制構築が必要である。

当市における特別な支援を要する児童・生徒は小中学校合わせて200名余である。障がいの状態や特性やそれに伴う学習上の困難は多様且つ個人差が大きいため、障がいのない児童生徒以上に個別最適化した学び、特別な支援が必要である。

このように児童・生徒をとりまく環境、個々に抱える課題はさまざまである。その状況に応じた教育を行うにはICTの活用が有効な手段であり、その積極的な活用を進めることが必要である。

2 具体的施策

(1) 不登校児童・生徒と学校をつなぐ仕組みの構築

第一段階として、授業の様子をオンラインで中継し、授業の進捗状況やクラスの雰囲気を見守ることで、学校のつながりを確保すること。

第二段階として、オンラインでも質問や発言の機会を設けることにより、授業に参加できるようにすること。

(2) オンライン授業及び在宅学習の仕組みを構築

一斉休業となった場合でも、学習機会を提供し、尚且つ、子ども達の健康状態の把握や、規則正しい生活の維持が可能となるオンライン授業の仕組みを構築し、試験的な運用を行うこと。あわせて、デジタルプリントなどを活用した在宅学習の充実を図るために、ノート型PCを家庭への持ち帰りを積極的に実施すること。

(3) 特別な支援を要する児童・生徒に配慮した教育の実施

表示変換機能や拡大表示機能、図形やイラストを用いた視覚的な補助、視線入力や読み上げ機能など、ICTの特性を最大限発揮し、身体の障がいによる学習上の困難や、知的や発達障がいによる学びにくさやコミュニケーションの困難の解決に向けた学習指導を行うこと。

第5 終わりに

全国の自治体では、G I G Aスクール構想に基づき、子どもたちの未来の学びの実現に向けさまざまなI C T活用の取り組みが推進されている。このG I G Aスクール構想は、1人1台の学習端末と通信ネットワークを一体的に整備することにより、特別な支援を必要とする子どもたちを含めた多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育I C T環境を実現することを目指している。

この取り組みにより、これまでの教育実践の蓄積と最先端のI C Tのベストミックスを図ることができ、教師・児童生徒の力が最大限に引き出され、学習活動の一層の充実、主体的・対話的で深い学びの視点から、学習の改善が図られることが期待される。加えて、校務支援ソフトや勤務時間管理システムも導入されることから、教職員の働き方改革にもつながることが期待される。

教育厚生常任委員会では、奥州市においても児童生徒と教職員にとって最善の形となる環境を整えるため、学校現場と行政が力を合わせた取り組みを進めることが重要であることから、「I C Tを活用した学校教育」に関する政策提言を行うこととした。政策提言に向け、教育委員会事務局への所管事務調査、児童生徒及び教職員を対象とした「学習用ノート型P Cを活用した学習に関する調査」についてのアンケートを実施した。短い調査期間ではあったが、児童生徒及びその保護者から786件、教職員から156件の回答があり、大変貴重なご意見をいただいた。

この政策提言は、現場の声を盛り込んだ内容であるということを汲み取り、この提言に基づく政策が実現され、奥州市の児童生徒の学力向上が図られることを期待する。

奥州市議会 教育厚生常任委員会

委員長 高橋 政 一

副委員長 小野寺 満

委員 小 野 優 高 橋 浩 千 葉 敦
及 川 佐 阿 部 加代子

資料

学習用ノート型PCを活用した 学習に関する調査

調査期間

令和3年11月24日（水）～12月8日（水）

調査対象

奥州市内全小中学校

児童・生徒及びその保護者 8,150人

教職員 605人

（人数は令和3年5月1日時点）

回答数/回答率

児童・生徒及びその保護者 786件/ 9.6%

教職員 156件/25.7%

教育厚生常任委員会アンケート調査実施要項

1 目的

奥州市議会教育厚生常任委員会では、「学校教育におけるＩＣＴの活用」をテーマとした政策提言の提出を目指し、所管事務調査や先進地視察などの調査活動を進めています。当市では、２学期から生徒一人に一台ノート型パソコンが整備され、授業や家庭での活用が始まりました。

児童、生徒、保護者及び教職員を対象としたアンケート調査を実施し、政策提言の内容に反映させ、もって奥州市の学校教育の向上に資することを目的とするものです。

2 実施主体

奥州市議会教育厚生常任委員会

3 アンケート内容

家庭用（児童・生徒、保護者向け）と教職員向けの２種類のアンケートを実施します。アンケートへの回答は任意とし、調査結果は目的以外には使用しません。また、個人の特定につながる質問項目は含みません。

※質問項目は別紙のとおり

4 実施方法

アンケートはグーグルフォームを用いて、オンライン上で行います。アンケートのＵＲＬを含めた依頼文（別添参照）を、各学校のマチコミにて配信をお願いするものです。

5 実施期間

令和３年11月24日（水）～12月8日（水）

6 政策提言の内容と提出時期

提言内容 ＩＣＴを活用した学校教育に関する政策提言（予定）

提出時期 令和４年２月中旬 （令和４年第１回定例会中）

学習用ノート型P Cを活用した学習に関する調査 (主体：奥州市議会 教育厚生常任委員会)

2学期からノート型P Cが生徒1人に1台導入されました。奥州市議会では、ノート型P Cを活用した学校教育をより良いものとするために、皆さんからの声を取り入れた政策提言の準備を進めています。ぜひ親子で話し合いながら、アンケートへの回答をお願いします。

※本アンケートへの回答は任意です。調査結果は目的以外には使用しません。また、個人の特定につながる質問項目は含まれておりません。

問 学校の区分を教えてください

1. 小学校
2. 中学校

問 これまで授業で何回くらいノート型P Cを使いましたか

1. 1～4回
2. 5回以上
3. 一度も使っていない

問 ノート型P Cを使った教科を教えてください（当てはまるものを全て選択）

1. 国語
2. 算数・数学
3. 理科
4. 社会
5. 英語
6. 音楽
7. 体育
8. その他の教科
9. 使っていない

問 授業ではどのように使いましたか（当てはまるものを全て選択）

1. インターネット調べ学習をした
2. 動画を見た（実験動画、ものづくりの様子、英会話の様子など）

3. カメラ機能を使って、写真や動画を撮影した
4. その他の使用
5. 使っていない

問 使ってみて良かった点を教えてください

1. 勉強が楽しくなった
2. 勉強がわかりやすかった
3. もっと使ってもっと勉強をしたいと思うようになった
4. まだわからない
5. まだ使っていない

問 改善してほしい点を教えてください

1. 使い方がよくわからない
2. 授業でたくさん使うようにしてほしい
3. 今までどおりの授業の方が良い（ノート型PCを使いたくない）
4. 特にない。まだわからない
5. まだ使っていない

問 こういう授業を受けてみたいという希望を教えてください

（当てはまるものを全て選択）

1. 他の学校の生徒達とグループ学習をしたい
2. 海外の生徒と交流したい（姉妹都市など）
3. オンライン授業をやってほしい（自宅で授業を受けたい）
4. 動画撮影、編集をやりたい
5. プログラミング教材（ソフト）を使った授業
6. 特に希望はない

問 保護者にお聞きします。ノート型PCを使った学習についてご意見、ご要望を教えてください（自由記述）

回答例） ネットトラブルに巻き込まれないか不安。非常に良い取組みなので、教科書も全てデジタルにしてほしい。壊してしまわないか不安なので、家庭への持ち帰りはしないでほしい。など

【教員対象】学習用ノート型PCを活用した学習に関する調査
(主体：奥州市議会 教育厚生常任委員会)

2学期からノート型PCが生徒1人に1台導入されました。奥州市議会では、ノート型PCを活用した学校教育をより良いものとするために、政策提言の準備を進めています。アンケートへご協力をお願いします。

※本アンケートへの回答は任意です。調査結果は目的以外には使用しません。また、個人の特定につながる質問項目は含まれておりません。

問 現在勤務する学校の校種を教えてください

1. 小学校
2. 中学校

問 ノート型PCを使った授業に向けて今必要と感じることを教えてください
(複数選択可)

1. 操作研修会
2. ICT支援員の配置
3. 奥州市内の他校教員との意見交換会、学習会
4. 先進地の視察
5. 授業で利活用するための具体的な事例（授業内容等）
6. 特に必要なことは感じない。（充分対応できている）

問 児童・生徒がノート型PCを自宅へ持ち帰ることについて伺います

1. 自宅での学習利用を勧めたい
2. 校内のみの利用としたい
3. 今の時点ではどちらとも言えない

問 ノート型PCの利用についてご意見やご要望をお聞かせください（記述式）

例) 授業を配信し、不登校児童・生徒が授業へ参加できるようにしたい。学級通信やお知らせなどを全てデータで配信できるようにしたい。など

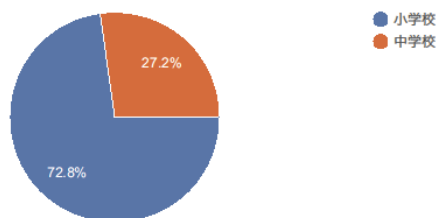
問 ノート型PCの利用を進めていく上で、課題とすることや、懸念を抱いていることがあれば教えてください（記述式）

何も無い場合は、「無し」と記述をお願いします。

学習用ノート型PCを活用した学習に関する調査（児童・生徒・保護者）

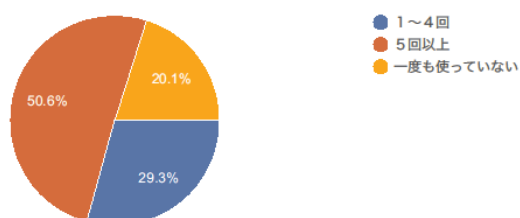
学校の区分を教えてください

786 件の回答



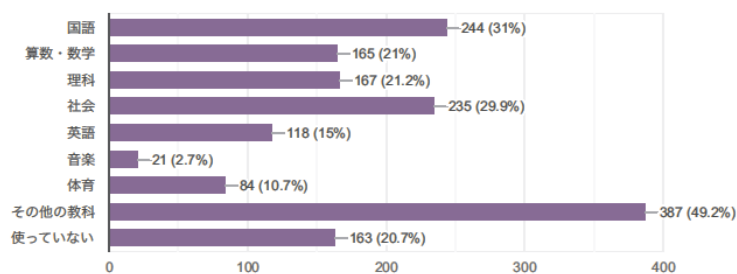
これまで授業で何回くらいノート型PCを使いましたか？

786 件の回答



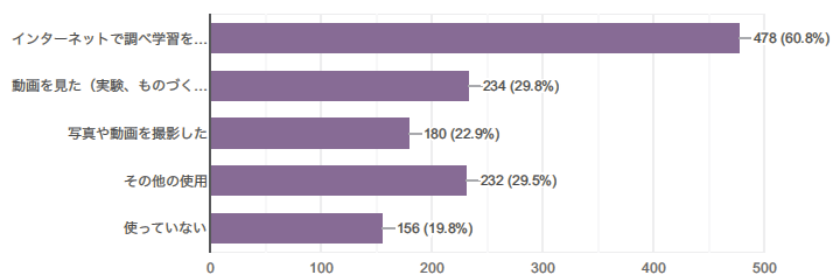
ノート型PCを使った教科を教えてください（当てはまるものを全て選択）

786 件の回答



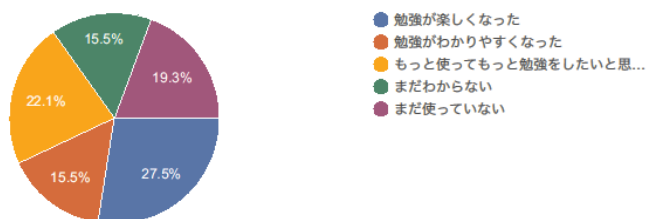
授業ではどのように使いましたか。（当てはまるものを全て選択）

786 件の回答



使ってみて良かった点を教えてください

786 件の回答



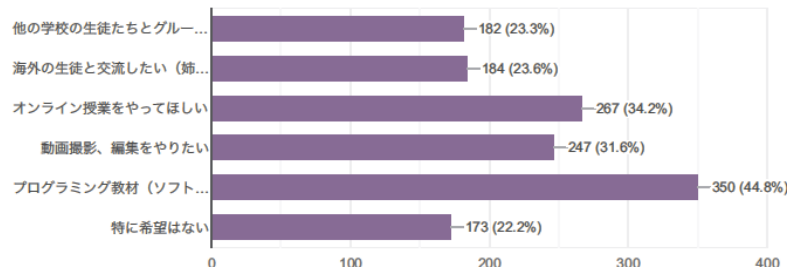
改善してほしい点を教えてください

786 件の回答



こういう授業を受けてみたいという希望を教えてください（当てはまるものを全て選択）

781 件の回答



問 保護者にお聞きします。ノート型PCを使った学習についてご意見、ご要望を教えてください

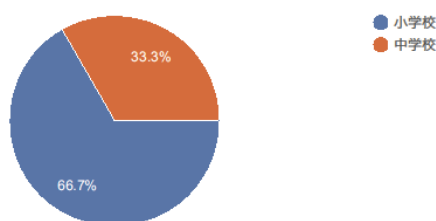
主な回答

- ・ ネットトラブルが不安
- ・ ノート型PCの利用は賛成だが、鉛筆やノートなどの利用も併用してほしい
- ・ もっと授業で活用してほしい
- ・ オンライン授業、リモート授業を実施してほしい
- ・ 破損が心配。家庭への持ち帰りはしないでほしい

学習用ノート型PCを活用した学習に関する調査（教職員）

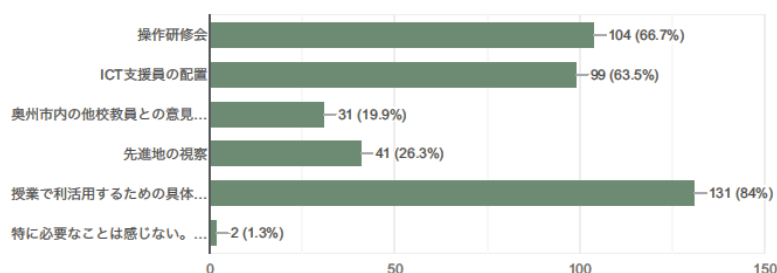
現在勤務する学校の校種を教えてください

156 件の回答



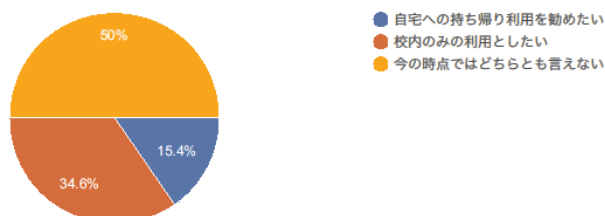
ノート型PCを使った授業に向けて今必要と感ずることを教えてください。（複数選択可）

156 件の回答



児童・生徒がノート型PCを自宅へ持ち帰ることについて伺います。

156 件の回答



問 ノート型PCの利用についてご意見やご要望をお聞かせください

主な回答

- ・ネット環境を整えてほしい（体育館、各家庭）
- ・お知らせや宿題、アンケートなどのデータ配信、ペーパーレス化
- ・家庭学習での利用、リモート授業の実施

問 ノート型PCの利用を進めていく上で、課題と感ずることや、懸念を抱いていることがあれば教えてください

主な回答

- ・ネット依存、ネットトラブル、いじめ
- ・使いこなすには研修が必要だが、時間も余裕もない
- ・Windowsとの互換性が無く、使いづらい